

教 科	理 科		科 目	化学基礎	単位数	2
学 年	3 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科		
教科書（出版社）		新編 化学基礎（東京書籍）				
副教材（出版社）		ニューサポート新編化学基礎（東京書籍）				
授業の概要		化学が物質を対象とする科学であることを理解し、実験・観察を行うことで、化学が人間生活に果たしている役割について学習する。				
授業の目標		日常生活や社会との関連を図りながら科学への関心を高め、目的意識をもって実験・観察を行い、身のまわりにある化学に興味・関心をもたせるとともに、元素記号や周期表、化学の基本的な法則や概念を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	1 編 化学と人間生活 1 章 化学とは何か 2 章 物質の成分と構成元素 2 編 物質の構成 1 章 元素の構成と元素の周期表		・物質と人間生活の関連、歴史について理解する。 ・生活のいろいろな場面で化学の知識が必要であることを理解する。 ・物質の構成粒子としての原子の構造について理解する。 ・試薬を安全に扱う方法や、基本的な実験器具の名称と使用法を習得する。 ・周期律と周期表の構成について、族や周期の意味を理解する。		
	2 学 期	2 章 化学結合 3 編 物質の変化 1 章 物質と化学変化 2 章 酸と塩基		・イオン結合や金属結合、共有結合などの化学結合の仕組みについて理解する。 ・有効数字について理解する。 ・物質の考え方と化学反応式の書き方について理解する。 ・化学反応式の示す量的な関係について理解する。 ・酸と塩基の定義や性質を理解する。 ・中和滴定の実験を通して、指示薬や実験器具の名称と使用法を習得する。		
	3 学 期	3 章 酸化と還元反応 終章 化学が拓く世界		・金属のイオン化傾向について理解し、いろいろな金属の反応性について考察する。 ・電池のしくみについて理解し、身のまわりの酸化還元反応について化学的に考察する。 ・化学と社会や生活の関連を理解する。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・学習内容について理解を深めることができる。 ・基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。		・授業内容について科学的な捉え方ができている。 ・授業内容と社会や生活との関連を考えることができる。		・自然の現象について興味と関心をもち、積極的な態度で授業、実験に取り組むことができる。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科		保健体育		科 目	体 育	単位数	3
学 年		3 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		現代高等保健体育 改訂版（大修館書店）					
副教材（出版社）		現代高等保健体育ノート 改訂版（大修館書店）					
授業の概要		心と体のバランスを整えながら、自分の体力や体調に合わせた授業への参加を実践できるようにする。自分や仲間の健康・安全を確保した活動の中で、それぞれの課題を見つけてその解決に取り組み、技能の習得段階に応じた内容の練習や試合を考えながら進めていく。また、公正や協力、責任などの態度の育成を目指し、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育成する。					
授業の目標		1 各種の運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わいながら、さまざまな技能が身に付けられるようにする。 2 運動における競争や協働の意味を正しく理解し、自己や仲間の課題を解決していくために必要な態度や能力を養う。 3 健康や安全を確保し、継続して運動に親しむことができるようにする。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	1 体づくり運動 各種体操、集団行動、補強運動及び長距離走など 2 選択Ⅰ バドミントン、テニス、卓球及び柔道から1つ選択 3 体育理論Ⅰ			・自分の体力や体調に合わせた運動を継続して行う。 ・基本的な集団行動を学び、日常生活の中に役立てていく。 ・仲間と協力したウォーミングアップを通して、体や心の状態に気づく。 ・基本的な用具の操作やボール操作を身に付ける。 ・自分たちのレベルに合わせたルールを考えながら、仲間と協力して簡易ゲームで勝敗を競う。 ・技の名称や使い方を覚え、基本的な技を使った攻防をできるようにする。 ・健康・安全を確保して活動する。 ・豊かなスポーツライフの設計について学ぶ。		
	2 学 期	4 選択Ⅱ ソフトボール、バレーボール及びハンドボールから1つ選択 5 選択Ⅲ サッカー及びバスケットボールから1つ選択 6 体育理論Ⅱ			・基本的な用具の操作やボール操作を身に付ける。 ・自分たちのレベルに合わせたルールを考えながら、仲間と協力して簡易ゲームで勝敗を競う。 ・作戦や状況に応じた技能で仲間と連携してゲームを展開する。 ・健康・安全を確保して活動する。 ・豊かなスポーツライフの設計について学ぶ。		
	3 学 期	7 選択Ⅲの続き			・個人技能や集団的技能の程度に応じてゲームができるようにする。 ・各技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から作戦を立て、工夫をすることの楽しさや喜びを味わい、生涯スポーツに生かす。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	運動の楽しさや喜びを深く味わうために自ら進んで運動しようとしている。 公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いている。		自分や仲間の体力や学習段階に応じた課題を見つけ出している。 課題解決を目指し、工夫している。 自分やチームで考えたことを他者に伝えることができる。		体づくり運動の行い方や、さまざまな運動の技能、ゲームの進め方が身に付いている。 自分や仲間の健康・安全を守るための知識を理解し、実践している。		
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	外 国 語		科 目	英語コミュニケーションⅢ	単位数	3
学 年	3 年		類 型	流通経済科		
教科書（出版社）		BIG DIPPER English CommunicationⅢ（数研出版）				
副教材（出版社）		UNITE 英語総合問題集 Stage 2（数研出版） UNITE 英語総合問題集 Stage 3（数研出版）				
授業の概要		1 予習では、単語やイディオムの意味を辞書で調べて、本文の内容を把握する。 2 予習で分からなかった箇所は、授業の説明を聞いて、ノートを整理する。 3 ペアワークやグループワークなどの言語活動を通して、英語を使う機会を増やす。				
授業の目標		1 積極的に英語に触れ、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 2 英語を聞いたり読んだりして理解したことに加えて、本文内容に関する情報や自分の考えなどを整理して伝える力を養う。				
年間学習計画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学期	Lesson1 Is the Meat Real or Fake? Lesson2 Let's Have a Healthy Workout Lesson3 My Opinion of Zoos Lesson4 The history of Ekiben Lesson5 Three Tips for Maintaining a Conversation Lesson6 The History of Recorded Music Lesson7 Online Word-of-Mouth Lesson8 After the Flowers Lesson9 Hot Springs at Home and Abroad Lesson10 Kintsugi Lesson11 Art on Display Lesson12 Can You Manage Your Anger?		・既習の文法事項を復習しながら、つなぎ語を意識し、代替肉、筋トレ、駅弁などのユニークな題材の短い英文を読んで必要な情報を的確につかみ、意見を伝え合う。 ・学習内容は、例示、追加、列挙、対比などの表現や、討論でよく使う表現、言い換え表現などである。		
	2 学期	Lesson13 Crowdfunding Lesson14 A New Orchestra and a New Harmony Lesson15 Instant Replay in Sports Lesson16 Endangered Languages Lesson17 Is This the Right Way to Protect the Environment? Lesson18 The Shoe That Grows Lesson19 Fake News Lesson20 Human Society and Infectious Diseases Lesson21 Having a Discussion		・文章全体の構成を意識して、経済、環境、教育・社会問題、メディア・倫理など様々なジャンルのやや長めの文章を読み、必要な情報を的確につかむ。また、その情報をもとに適切な自己表現活動を行う。 ・学習内容は、ディスカッションの注意点、新聞記事の読み方や譲歩の表現などである。		
	3 学期	Lesson22 Writing a Summary Lesson23 Question-and-Answer Session Lesson24 Writing a Summary2		・様々なジャンルの長めの文章を読み、さらに様々な形式の関連情報を得て考えを深めることで、読解力向上を目指すとともに、より高度な発信活動を行う。 ・学習内容は、要約文の作り方、プレゼンテーション、リテリングなどである。		
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	語彙や文法を理解して、本文の内容を読み取る技能を身に付けている。また、本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理して伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。		本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、ペアで話し合ったり、ある程度まとまった分量の英文を書いたりしている。		英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度が身に付いている。	
備考	各学期の定期考査までの学習のまとめりごとに、3つの観点をABCの3段階で評価し、100点法を用いて評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。					

教 科	外 国 語		科 目	中国語入門	単位数	2
学 年	3 年		類 型	流通経済科		
教科書（出版社）		高校生からの中国語（白帝社）				
副教材（出版社）						
授業の概要		1 各レッスンでテーマに応じた文法事項を学び、読んだり書いたりして練習する。 2 中国語の決まりや文の形を正しく理解し身に付ける。				
授業の目標		1 ペアやグループ学習を通して、自分の考えを相手に正しく理解してもらえるよう、積極的に会話練習を行う。 2 中国語によるコミュニケーション能力の向上を図る。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	発音：母音 1 発音：声調 発音：子音 1 発音：母音 2 発音：子音 2 発音：母音 3 発音：母音 4 声調の発音 唐詩：春曉 第 1 課：私は高橋美恵です 第 2 課：私は希望高校の生徒です		・様々な種類の「発音」を学び、中国語独特の母音と子音の発音を身に付ける。 ・「声調」を学び、第一声、第二声、第三声、第四声、轻声の違いを聞き分ける。 ・唐詩を音読し、発音練習の総まとめをする。 ・「姓」と「叫」の使い方を学び、簡単な自己紹介をする。 ・数字と数え方、量詞「个」、「几」や「多少」の使い方を学び、自分の学校を紹介する。		
	2 学 期	第 3 課：私は東京に住んでいます 第 4 課：私は 6 時半に起きます 第 5 課：私は絵を描くのが好きです 第 6 課：自己紹介 第 7 課：どこで会いますか 第 8 課：希望高校へどう行きますか 第 9 課：いくらですか		・家族の呼称、動詞「在」の使い方を学び、自分の家のことについて紹介する。 ・時刻の言い方、時間を表す言葉の順序を学び、一日の生活を紹介する。 ・「喜欢」の使い方を学び、自分の趣味や好きなことを紹介する。 ・年齢の聞き方や言い方を学び、自己紹介のまとめをする。 ・月、日の言い方や「在」の使い方を学び、待ち合わせの約束をする。 ・「怎么」＋動詞、所要時間の聞き方と言い方を学び、目的地までの行き方や所要時間を尋ねる。 ・「还是」、指示代名詞の使い方を学び、買い物ができるようにする。		
	3 学 期	第 10 課：どこに行きましたか 第 11 課：中国に行きたいです 第 12 課：中国の友達への手紙		・「了」、形容詞の反復疑問文を学び、行動や感想について話す。 ・「想」、動詞＋時間の長さについて学び、計画や希望を伝える。 ・手紙の形式、決り文句について学び、手紙を書く。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	単語、熟語、文法などについて、その意味や適切な使い方を理解している。日本語との文構造、文化の違いに興味を持っている。		学んだ文法を使って、自分のことや考えなどを書くことができる。また、それらを応用して、まとまった文章を書くことができる。		コミュニケーション活動を意欲的に図ろうとしている。学んだ文法を積極的に使おうとしている。	
備 考	学期ごとに 3 つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・C の 3 段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科		家 庭		科 目	家庭総合	単位数	2
学 年		3 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科		
教科書（出版社）		家庭総合 ～自立・共生・創造～ （東京書籍）					
副教材（出版社）		2024 年度 家庭科ノート、調理実習ノート基礎編（愛媛県高等学校家庭科教育研究会編）					
授 業 の 概 要		「住生活の科学と文化」「食生活の科学と文化」「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の3項目で構成する。これらの内容については、実践的・体験的な学習活動を中心とし、相互に関連を図りながら学習する。					
授 業 の 目 標		1 住生活・食生活に関する知識と技術を総合的に習得する。 2 学習した知識や技術を生かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を身に付ける。 3 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第8章 住生活をつくる 第6章 食生活をつくる ◎ 調理実習 ○ ホームプロジェクトについて			・住居の機能を考え、平面図の基礎知識を得て、間取りを理解し、ライフステージにあった住居を考える。 ・住居を選ぶ際、室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を学び、バリアフリーの考え方を理解し、身に付ける。 ・気候風土に応じた様々な住居、地域社会との繋がりを理解し、持続可能な住生活とは何かを考える。 ・食品の選択保存や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ・日常の食生活を振り返り、食生活の変化や問題点を知る。 ・食生活の自立に必要な基本的な調理技術を科学的な視点から学び、日常食を作れるようになる。 ・ホームプロジェクトの計画		
	2 学 期	○ ホームプロジェクトの発表 第6章 食生活をつくる ◎ 調理実習			・日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 ・青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。 ・日本や地域の食文化を見直し、食文化を主体的に継承できるようにする。		
	3 学 期	第6章 食生活をつくる			・環境や食糧自給率の問題を考える。 ・生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度		
	生活を主体的に営むために必要な住生活、食生活、環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。		様々な人々と協働し、より良い社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。		
備 考	3つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評定を平均し、総合的に評価する。						

教 科		商 業		科 目	課題研究	単位数	3
学 年		3 年		類 型	流通経済科		
教科書（出版社）		課題研究の手引き（松山商業高校）					
副教材（出版社）							
授業の概要		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を育成する。					
授業の目標		1 会計の基礎理論を理解し、実務に応用できる能力を養う。 2 日商簿記2級の試験に合格するための知識・技術を習得する。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	1 会計の基礎概念と原則 2 仕訳と総勘定元帳 3 財務諸表の作成 ・貸借対照表の作成方法と解説 ・損益計算書の作成方法と解説 4 資金収支計算書とキャッシュ・フロー計算書 ・資金収支計算書の作成と解説 ・キャッシュ・フロー計算書の作成と解説			・会計の目的と意義を理解し、会計の基本原則を把握する。 ・貸借対照表と損益計算書の作成方法をマスターし、正確に解説できる。 ・資金収支計算書とキャッシュ・フロー計算書の作成方法を理解し、企業の財務状況を把握できる。		
	2 学 期	5 財務分析 ・比率分析の方法と解釈 ・財務状態分析の手法 6 特殊取引の会計処理 ・割引計算の仕訳と処理 ・預り金・前受金の取り扱い 7 工業簿記 ・各種原価の計算方法 ・原価計算の方法と意義			・比率分析の手法を習得し、企業の財務状態を分析できる。また、財務状態分析の手法を理解し、適切な判断ができる。 ・割引計算や預り金・前受金の取り扱いを正確に行える。 ・各種原価の計算方法を理解し、正確な原価計算ができる。また、原価計算の方法とその意義を理解し、企業の原価管理に貢献できる。		
	3 学 期	8 会社法と税法 ・会社法に基づく会計処理の特徴 ・税法に基づく会計処理の基本原則			・会社法に基づく会計処理の特徴を理解する。また、税法に基づく会計処理の基本原則を理解し、税務申告ができる。		
観 点 別 評 価	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	会計の基本概念や原則について正確に理解している。 実務シナリオに基づいた問題を解決する能力が身に付いている。			問題解決過程や意見の展開において論理的な思考ができている。 複雑な情報を分析し、適切な判断を下す能力が身に付いている。		学習目標を設定し、自己管理能力を発揮して学習に取り組んでいる。 自発的に学習に参加し、責任感を持って課題に取り組んでいる。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科		商 業		科 目	課題研究	単位数	3
学 年		3 年		類 型	流通経済科		
教科書（出版社）		課題研究の手引き（松山商業高校）					
副教材（出版社）							
授業の概要		財務諸表に関する基礎的な知識と技術の習得に重点を置く。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を育成する。					
授業の目標		1 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2 財務会計の意義や制度について理解する。 3 会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第1編 企業会計の基礎			・資産、負債、純資産の種類と会計処理及び財務諸表の作成をとおして、企業の財政状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成をとおして、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。		
		第2編 資産					
		第3編 負債					
		第4編 損益計算					
		第5編 財務諸表の作成					
2 学 期	第6編 財務諸表の活用			・財務諸表分析の意義及び財務諸表の見方について学び、財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・連結財務諸表の目的と連結の範囲及び連結財務諸表の基礎について学び、連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。			
	発展学習						
3 学 期	発展学習			・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。 ・企業の経営者や社会人としての倫理観等を身に付ける。			
観 点 別 評 価	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	会計情報を利害関係者に提供する能力と態度及び提供された会計情報については、ビジネスの諸活動に適切に活用する能力と態度を身に付けている。			会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。		財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	商 業		科 目	課題研究	単位数	3
学 年	3 年		類 型	流通経済科		
教科書（出版社）		課題研究の手引き（松山商業高校）				
副教材（出版社）						
授業の概要		製造業における工業簿記の記帳法と、原価計算の基本的な考え方、知識と技術を習得する。また、原価計算によって得られる情報を効果的に活用するための能力と態度を育てる。				
授業の目標		1 原価計算に関する基本的・基礎的な知識と技術を身に付ける。 2 製造業において行われる取引・活動を計数的に把握し、活用する学習を通して、原価に対する理解を深める。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第Ⅰ編 原価と原価計算 第1章 原価の概念 第2章 原価計算の特色としくみ 第Ⅱ編 原価の費目別計算 第1章 材料費の計算 第2章 労務費の計算 第3章 経費の計算 第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算 第1章 個別原価計算		・原価の概念、原価計算の目的、製造業における簿記の特色としくみについて学び、原価計算の概要について理解する。 ・材料費、労務費及び経費の計算と記帳をとおして、原価の費目別計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・個別原価計算、部門別個別原価計算、総合原価計算について学び、原価の部門別計算と製品別計算の行うための基礎的な知識と技術を習得する。		
	2 学 期	第2章 部門別個別原価計算 第3章 総合原価計算 第Ⅳ編 内部会計 第1章 製品の完成と販売 第2章 本社・工場会計 第3章 製造業の決算 第Ⅴ編 標準原価計算 第1章 標準原価計算の目的と手続き		・製品の完成・販売と本社・工場間の取引の記帳方法及び製造業の決算について学び、製品の完成・販売に関する会計処理と決算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・標準原価計算の目的と手続き、原価差異の原因分析及び損益計算書の作成をとおして、標準原価計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。		
	3 学 期	第2章 原価差異の原因別分析 第Ⅵ編 直接原価計算 第1章 直接原価計算の目的と財務諸表の作成 第2章 短期利益計画への活用		・直接原価計算の目的と損益計算書の作成及び短期利益計画について学び、直接原価計算の有用性について理解する。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連付けられビジネスの様々な場面で役に立つ知識と技術が身についている。		原価計算をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、原価計算に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫してより良く課題に対応する力が身についている。		他者と信頼関係を構築して積極的にかかわり、原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などによる原価情報の提供と効果的な活用に責任を持って取り組む態度が身についている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科		商 業	科 目	課題研究	単位数	3
学 年		3 年	類 型	流通経済科		
教科書（出版社）		課題研究の手引き（松山商業高校）				
副教材（出版社）						
授 業 の 概 要		簿記の基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。				
授 業 の 目 標		1 企業において発生する取引を仕訳し、勘定科目を経て、決算に至る簿記の基本的な仕組みについて理解する。 2 帳簿や財務諸表を通して、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第Ⅰ編 簿記の基礎 第Ⅱ編 取引の記帳と決算Ⅰ		・簿記の意味、目的、役立ちなどを理解させ、学習の心構えを養う。 ・資産・負債・純資産・収益・費用のそれぞれの意味と種類を理解する。 ・現金、当座預金、その他の預金の意味を理解する。 ・3分法による商品売買損益の計算法と記帳法を習得する。 ・第Ⅱ編で学習したいろいろな勘定科目の意味を理解し、正しい仕訳ができるようにする。		
	2 学 期	第Ⅲ編 取引の記帳と決算Ⅱ 第Ⅳ編 帳簿・伝票 第Ⅴ編 取引の記帳と決算Ⅲ		・約束手形と為替手形の違いを理解させ、これらの手形の授受に伴う記帳法を理解する。 ・帳簿の種類と、帳簿組織およびそれらと分課制度との関係、帳簿種類の立案について理解する。 ・普通の売買取引と対比させながら、それぞれの取引の特徴を十分理解する。		
	3 学 期	第Ⅵ編 本支店の会計 発展編 株式会社の記帳		・支店会計の意味を理解させ、本支店間および支店相互間の取引の記帳法を理解する。 ・未達事項の意味と、その整理法を理解させる。 ・株式会社と個人企業との記帳方法の違いについて理解する。 ・繰延資産の意味と種類について理解する。 ・剰余金の処分、社債、税金の記帳について理解する。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けられた。		取引の記録と財務諸表の作成方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養うことができた。		企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができた。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科		商 業		科 目	課題研究	単位数	3
学 年		3 年		類 型	流通経済科		
教科書（出版社）		課題研究の手引き（松山商業高校）					
副教材（出版社）		ビジネス文書実務検定模擬試験問題集（実教出版）					
授 業 の 概 要		1 ビジネスの諸活動における情報伝達手段としての文書の重要性を理解させるとともに、情報を効果的に伝える文書を作成し、発信する能力と態度を育てる。 2 職業資格の取得これまで学習した知識・理解の習得を確認しながら、上級資格取得を目指す。					
授 業 の 目 標		マルチメディアを活用してビジネス情報を創造的に表現し、分かりやすく、説得力のある文書を作成するための知識と技術を習得させ、情報通信ネットワークやソフトウェアを活用したプレゼンテーションなどにより、ビジネスにおける総合的な情報発信能力を育てる。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	(1) オリエンテーション (2) 形式別演習 (全商情報処理検定) ①ハードウェア・ソフトウェアに関する知識 ②通信ネットワークに関する知識 ③情報モラルとセキュリティに関する知識 ④計算問題 ⑤表計算ソフトウェアに関する知識 ⑥データベースソフトウェアに関する知識	(全商ビジネス文書検定) ① 速度 ② ビジネス文書 ③ 筆記 ④ 検定問題演習		・表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計方法や分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。 ・リレーショナルデータベースの特徴や機能を理解するとともに、データベースソフトウェアを活用するための知識と技術を身に付ける。 ・情報を効果的に伝える文書を作成する。 ・分かりやすく、説得力のある文書を作成するための知識と技術を習得する。 ・時間内に正しく正確な文字入力ができているか確認する。 ・手引きの記入を毎時確実に行わせる。 ・一学期を振り返り今後につなげる。		
	2 学 期	(3) マルチメディアの活用 ① 静止画像の莉字 ② 動画像の利用 ③ 音声の利用 ④ 情報の統合			・作表問題についての解説を行い、理解させる。 ・各種機能や作表の内容について説明し学習する。 ・2学期の報告書を作成し、報告させ、生徒に発表させる。 生徒の相互間の自己評価を行わせる。		
	3 学 期	(4) プレゼンテーション ① 口頭表現 ② 文章表現			・課題研究報告書を作成し、発表させる。		
観 点 別 評 価	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	文書作成が時間内に正しく行われ、学習した内容が適切に行われている。 マルチメディアと関連づけた処理作成について基礎・基本的な知識が身についている。			文書の構成を様々な角度から考察し、それぞれに見合った処理が判断できる。 情報の集計と分析について理解し、様々な集計方法や分析結果を適切に表現する能力が身に付ける。		通信文書の仕組みについて学習し、関心を持ち主体的に取り組んでいる。 表計算ソフトウェアを効果的に活用し、関心を持ち主体的に取り組んでいる。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科		商 業		科 目	総合実践	単位数	2
学 年		3 年		類 型	流通経済科		
教科書（出版社）		総合実践 ―企業取引を学ぶ― 三訂版（実教出版）					
副教材（出版社）							
授業の概要		1 これまでに学習してきた各科目の内容が、実際のビジネス活動でどのように関連しているかを実践的に学習する。 2 ビジネス活動に必要な知識・技術について、模擬実践を通して、一連の業務の中で体験的・一体的に学習する。					
授業の目標		1 ビジネスに必要な基本的な知識・技術・態度を総合的に身に付け、それらを実際に活用できるようにする。 2 ビジネス社会の有機的な関連を実践的に理解し、その中で自分が担当する職務についての自覚を深める。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第1編 基礎編 第1章 総合実践の学習 第2章 ビジネスマナー 第3章 ビジネス文書の作成 第2編 実践編 第1章 模擬取引の学習 第2章 模擬取引 1 卸売商の業務			・学習の目標と心得、学習方法を理解する。 ・社会人に必要となる基本的なマナーや応対時のマナー、電話応対について理解し、技術を身に付ける。 ・ビジネス文書の役割と重要性を理解し、基本的な作成技術を身に付ける。 ・卸売商の開始業務、経営計画、仕入業務、販売業務、月末・期末業務等に必要な知識・技術・態度を実践的な演習をとおして学習する。		
	2 学 期	2 倉庫会社の業務 3 保険会社の業務 4 運送会社の業務 5 銀行の業務 6 管理部の業務			・各会社（倉庫・保険・運送・銀行・管理部等）の開始業務、日常業務、月末業務について理解し、実践的な演習をとおして技術を身に付ける。 ・期末業務等に必要な知識・技術・態度を実践的な演習をとおして学習する。		
	3 学 期	7 情報処理の業務			・総合実践におけるコンピュータの利用について、知識と技術を身に付ける。		
観 点 別 評 価	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	記帳に必要な仕訳を理解し、諸帳簿・諸表の作成ができる。 帳票作成に必要な個々の金額の計算方法を理解している。 取引に関する証票に基づく起票、帳簿記入ができる。			会社の一員であるという意識を持ち、ビジネスマンとしてのマナー等に注意を払いながら行動することができる。 取引の流れや諸帳簿の起票および会計処理を正しく理解している。		ビジネスの諸活動に関心を持ち、自ら考えて積極的に活動することができる。 ビジネスに必要なマナーや知識を進んで習得しようとしている。	
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科		商 業		科 目	ビジネス・マネジメント	単位数	2
学 年		3 年		類 型	流通経済科		
教科書（出版社）		ビジネス・マネジメント（実教出版）					
副教材（出版社）		ビジネス・マネジメント準拠問題集（実教出版）					
授 業 の 概 要		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を身に付けることを目指す。					
授 業 の 目 標		1 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を理解し、合理的・創造的に解決する力を養う。 3 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第1章 ビジネスの創造 ①ビジネスの創造と社会 ②事業創造の基本 ③事業機会の発見 ④戦略と競争優位 ⑤事業創造の計画と実行 第2章 ビジネスの組織化 ①組織のマネジメント②分業と調整 ③組織の設計 ④組織内部のマネジメント⑤取引関係のマネジメント			・ビジネスにおけるマネジメントの概要を理解する。 ・マネジメントについての意識と意欲を高め、組織の一員として他者と協働する力を身に付ける。 ・ビジネスの創造について理解する。 ・組織のマネジメントについて企業における事例と関連付けて理解する。 ・組織のマネジメントに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、組織の管理と活性化の方策を考案して実施し、評価・改善をおこなう。 ・組織のマネジメントについて自ら学び、組織の一員として組織の適切な管理と活性化について、他者と協働する力を身に付ける。		
	2 学 期	第3章 経営資源のマネジメント ① 財務的資源のマネジメント ② 人的資源のマネジメント ③ 物的資源のマネジメント ④ 情報的資源のマネジメント 第4章 ビジネスの変革 ① ビジネスの拡大 ② 多角化の動機 ③ 多角化企業のマネジメント ④ 事業の転換			・経営資源のマネジメントについて企業における事例と関連付けて理解する。 ・経営資源のマネジメントに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、経営資源の管理と活用の方策を考案して実施し、評価・改善をおこなう。 ・経営資源のマネジメントについて自ら学び、経営資源の適切な管理と効果的な活用について、他者と協働する力を身に付ける。 ・ビジネスの創造と展開について企業における事例と関連付けて理解し、課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの創造と展開に関する計画を立案して実施し、評価・改善をおこなう。 ・ビジネスの創造と展開について自ら学び、プロジェクトを適切に管理し、ビジネスの創造と展開について、他者と協働する力を身に付ける。		
	3 学 期	第5章 ビジネスと社会 ① 社会における企業 ② 企業への支援 ③ 企業の責任 ④ 企業への牽制			・企業の秩序と責任について企業における事例と関連付けて理解する。 ・企業の秩序と責任に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、企業の秩序の維持と責任を果たす方策を考案して実施し、評価・改善をおこなう。 ・企業の秩序と責任について自ら学び、企業の秩序を維持し、責任を果たすことについて、他者と協働する力を身に付ける。		
観 点 別 評 価	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役立つマネジメントに関する知識を身に付けている。			ビジネスにおけるマネジメントをはじめとした様々な知識などを活用し、課題を発見し、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向、マネジメントの理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。		ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマネジメントについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、経営資源のマネジメント、新たなビジネスの創造と展開などに責任をもって取り組もうとしている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	商 業		科 目	グローバル経済	単位数	2
学 年	3 年		類 型	流通経済科		
教科書（出版社）		グローバル経済（実教出版）				
副教材（出版社）		グローバル経済準拠問題集（実教出版）				
授 業 の 概 要		経済のグローバル化をはじめとした様々な知識を活用し、企業における経済のグローバル化への対応に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいてより良く解決することについて考える。				
授 業 の 目 標		1 経済のグローバル化について実務に即して体系的・系統的に育成することを目指す。 2 経済のグローバル対応に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 3 ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、グローバル化する経済社会におけるビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第1章 グローバル化が進展する社会 1 国境を越えて広がる世界 2 グローバル化する社会 3 グローバル化と地域経済統合の動き 4 グローバル化と経済発展 5 グローバル化の諸問題 第2章 経営のグローバル化 1 多国籍企業とグローバル経営 2 企業の海外進出とグローバル経営の難しさ 3 グローバル経営の現状 4 グローバル経営の課題 5 グローバル化に伴う企業の社会的責任		・グローバル化と国際化の違いについて理解し、グローバル化する現在の社会について理解を深める。 ・金融、企業、社会の多様性とグローバル化の関連について考える。 ・地域経済統合の意義について学ぶ。 ・グローバル化によってどのように経済発展に結びつくのかを学ぶ。 ・グローバル化による問題点について考え、対応方法について検討する。 ・多国籍企業とグローバル経営について理解し、企業がグローバル化する理由について考える。 ・企業が海外進出する方法や難しさなどを学ぶ。 ・グローバル経営における課題を把握し、対応策について考える。 ・グローバル経営を進めるにあたって求められる企業の社会的責任について理解する。		
	2 学 期	第3章 経済のグローバル化 1 人材のグローバル化 2 財とサービスとグローバル化 3 金融のグローバル化 4 情報のグローバル化		・経済のグローバル化における人材の状況を外国人労働者や賃金の観点を含めて理解する。 ・自由貿易と国際分業の観点を基に経済のグローバル化における財のやり取りに関して、2国間協定や地域経・済統合の意義を学ぶ。 ・金融の役割や形態、金融商品、金融機関等について学ぶ。 ・情報通信技術の発達と個人情報のあり方についての視点から情報のグローバル化について理解する。		
	3 学 期	第4章 市場と経済 1 需要と供給による市場の理論 2 経済成長 3 景気循環とインフレーション 4 経済政策		・需要と供給に着目した市場に関する理論について理解し、現実の社会における市場の役割と課題について学ぶ。 ・GDPについて理解し、マクロ的な視点から経済成長について学ぶ。 ・経済政策における政府の役割について学び、現状と問題点について学ぶ。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	企業活動のグローバル化について経済社会における事例と関連付けて理解している。		企業活動のグローバル化に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、課題への対応策を考案して実施し、評価・改善できる。		企業活動のグローバル化について自ら学び、その動向を踏まえ、ビジネスに取り組むことができる。	
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	商 業		科 目	ビジネス法規	単位数	3
学 年	3 年		類 型	流通経済科		
教科書（出版社）		ビジネス法規（東京法令出版）				
副教材（出版社）		ビジネス法規 ワークブック（東京法令出版）				
授業の概要		法規にもとづくビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
授業の目標		1 ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解する。 2 法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠にもとづいて創造的に解決する力を養う。 3 ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規にもとづくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
年 間 学 習 計 画	学 期	学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
		1 学 期	第1章 法の概要 第1節 ビジネスにおける法の役割 第2節 法の体系と解釈・適用 第3節 権利・義務と財産権 第2章 企業活動と法規 第1節 契約 第2節 企業活動における契約 第3節 株式会社の特徴と機関 第4節 資金調達と金融取引	・法の意義や、体系、法の分類および法の解釈・適用などについて理解する。 ・契約の意義・成立・効力、典型契約、契約自由の原則およびその制限について理解する。 ・株式会社の意義、株主の責任と地位、株式の譲渡および所有（資本）と経営の分離などについて理解する。 ・銀行融資・クラウドファンディングなどの資金調達の方法、金融商品取引法・電子記録債権法などの金融取引に関する法律の概要、金融商品に関するセーフティネットについて理解する。		
		2 学 期	第5節 組織再編と清算・再建 第6節 競争秩序の確保 第3章 税と法規 第1節 税の種類と法人の納税義務 第2節 法人税の申告と納付 第3節 消費税の申告と納付 第4章 企業責任と法規 第1節 法令遵守（コンプライアンス） 第2節 労働者の保護 第3節 消費者の保護 第4節 情報の保護	・破産・民事再生など企業の清算・再建について理解する。 ・知的財産権の意義とその種類などについて理解する。 ・税務会計の概要や、法人の確定申告の流れと申告書の作成などについて理解するとともに、消費税の意義とその課税対象、税額計算の考え方および商品税の申告などについて理解する。 ・労働三法を始めとする労働者保護に関する規定、日本における労働者の保護に関する課題などについて理解する。 ・消費者基本法を始めとする消費者の保護に関する規定、日本における消費者の保護に関する課題などについて理解する。 ・ビジネスをおこなうさいの情報の保護の重要性や、日本における情報の保護に関する課題などについて理解する。		
		3 学 期	第5節 紛争の予防と解決 第5章 経済環境の変化と法 第1節 経済環境の変化と法	・ADR・和解・調停・仲裁・民事訴訟などの紛争の解決方法、裁判所の種類とその権限および国際的な紛争の解決などについて理解する。 ・経済活動の国際化・情報化・サービス経済化など、経済環境の変化にともなう法の改正などについて理解する。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	企業における事例など実際のビジネスと関連付けられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ法規に関する知識が身に付いている。		ビジネスに関する法規をはじめとしたさまざまな知識などを活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、法的な根拠にもとづいて工夫してよりよく解決する力が身に付いている。		法規について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、法規にもとづくビジネスに責任をもって取り組む態度が身に付いている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科		商 業		科 目	財務会計Ⅱ	単位数	2
学 年		3 年		類 型	流通経済科		
教科書（出版社）		財務会計Ⅱ （実教出版）					
副教材（出版社）							
授業の概要		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を育成する					
授業の目標		1 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業及び企業の経営判断を分析する力を養う。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第1編 財務会計の基本概念と会計基準 第1章 財務会計の基本概念 第2章 資産負債アプローチと収益費用アプローチ 第3章 会計基準の国際的統合 第2編 財務会計の実際 第4章 資産会計 第5章 負債会計 第6章 純資産会計 第7章 損益会計 第8章 リース会計 第9章 税効果会計			・財務会計の基本概念と会計基準に関する知識などを基盤として、財務会計と会計基準の意義について自らの考えをもつとともに、適切な会計情報の提供と効果的な活用ができるようにする。 ・金融商品、収益、費用などの会計処理に関する知識、技術などを基盤として、企業会計に関する法規と基準を実務に適用し、適切な会計情報の提供と効果的な活用ができるようにする。		
	2 学 期	第3編 企業活動の展開と財務会計 第10章 外貨換算会計 第11章 キャッシュ・フロー計算書 第4編 企業結合の会計 第12章 企業結合会計 第13章 連結財務諸表の作成(その1) 第14章 連結財務諸表の作成(その2) 第15章 持分法 第16章 連結財務効果会計 第5編 財務諸表の活用 第17章 財務諸表の活用			・キャッシュ・フローに関する財務諸表に関する知識、技術などを基盤として、企業会計に関する法規と基準を実務に適用し、適正なキャッシュ・フローに関する財務諸表による適切な会計情報の提供ができるようにする。 ・企業結合の形態、合併後の財務諸表の作成など企業集団の会計に関する知識、技術などを基盤として、企業会計に関する法規と基準を実務に適用することができるようにする。		
	3 学 期	第6編 監査と職業会計人 第18章 監査と職業会計人			・監査と職業会計人に関する知識などを基盤として、監査と職業会計人に関する制度に基づいて、会計情報の信頼性の確保について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。		
観 点 別 評 価	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術が身に付いている。			企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見出し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業及び企業の経営判断を分析することができる。		会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、国際的な会計基準を踏まえた適切な会計情報の提供と効果的な活用により主体的かつ協働的に取り組むことができる。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科		商 業		科 目	ネットワーク活用	単位数	2
学 年		3 年		類 型	流通経済科		
教科書(出版社)		ネットワーク活用（実教出版）					
副教材(出版社)							
授業の概要		ビジネスに携わる者としての視点や資質を養えるように、電子商取引に関連した内容だけに特化せず、社会的な動向や技術の発展、新しいビジネスのかたちについて学ぶ。					
授業の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるインターネットの活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	1 章 情報通信技術の進歩とビジネス 2 章 情報コンテンツの制作			・インターネットを活用したビジネスを展開する際に留意すべき個人情報や知的財産の保護の概要を学び、その重要性を理解する。 ・インターネットを活用したビジネスに関する法規やガイドラインの概要を学び、その必要性を理解する。 ・図形と静止画の情報コンテンツについて、利用方法や表現方法などの基礎的な知識を理解するとともにそれらを作成・編集する。		
	2 学 期	3 章 企業情報の発信と Web デザイン 4 章 インターネットと情報セキュリティ 5 章 電子商取引とビジネス			・Web ページの制作とデザインについて理解するとともに一般的な Web ページ制作手順を理解する。 ・CMS を利用する意義や利点を理解するとともに適切に用いて、Web サイト構築をする。 ・インターネットの仕組み、ビジネスにおいてインターネットを活用する利点及びインターネットサービスプロバイダの役割と業務について理解する。 ・企業間取引、企業対消費者間の商取引について学習し、情報通信ネットワークを活用したビジネスについて理解する。		
	3 学 期				・電子商取引を行うためのシステム構築方法を理解するとともに Web ページ作成ソフトウェアやフリーソフトウェアを使って構築する。 ・新たなビジネスの創造について進化する AI の活用方法について理解する。		
	観 点 別 評 価	知識・技術 ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けている。		思考・判断・表現 ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		主体的に学習に取り組む態度 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況をA・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	国 語	科 目	論理国語	単位数	3
学 年	3 年	類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		新編 論理国語（東京書籍）			
副教材（出版社）		新編 論理国語学習課題ノート・小説三選付属版（東京書籍）			
授業の概要		1 講義やグループ活動を通して、論理的な文章や実用的な文章の読み方を学ぶ。 2 論点を整理して読み、自分の考えを深めて論述したり討論したりする。			
授業の目標		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的・批判的に考える力、創造的に考える力を伸ばす。			
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）	学 習 目 標		
	1 学 期	1 時代をひらく ・最初のペンギン ・豊かさと生物多様性 ・考える楽しみ② 2 新しい視点から ・カフェの開店準備 ・言葉の扉③ 3 科学と人間 ・ロボットが隣人になるとき ・言葉の扉④	・タイトルに象徴させる筆者の考えを手がかりにして自分の生き方について考える。 ・論の展開に注意して読み、生物多様性の重要性と課題について理解を深める。 ・現代における真の価値の探究について理解する。 ・日々の何気ない光景から広がっていく筆者の思考を手がかりにして、自分の日常を見つめ直す。 ・紛らわしい漢字について理解する。 ・哲学的な思考に沿って書かれた評論を読み、人間の意志や自由について理解を深める。 ・的確な表現の仕方について理解する。		
	2 学 期	4 豊かな認識 ・科学的「発見」とは ・図表の読み取り方 5 知のゆくえ ・もう一つの知性 6 明日をみつめて ・ホンモノのおカネの作り方 ・やさしい日本語	・本文中の二つの課題を迫体験して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。 ・図表の読み方を理解し、情報を適切に読み取れるようにする。 ・科学的思考とは異なる思考の在り方を理解し、現代社会を生きるうえで必要な態度について考える。 ・二つの例の対比に注意して論旨をたどり、貨幣の持つ不思議さについて理解を深める。 ・資料を読んで「やさしい日本語」について理解し、実用的な文章の分かりやすさについて考える。		
	3 学 期	・未来のありか ・考える楽しみ③	・小見出しを参考にして各部分の内容と関係を読み取り、未来とは何かについて考える。 ・困難な時代における読書の役割について考える。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしているか。		論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしているか。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っているか。
備 考	各学期の定期考査までの学習のまとめりに、3つの観点を ABC の3段階で評価し、100点法を用いて評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教 科		地理歴史		科 目	歴史総合	単位数	2
学 年		3 年		類 型	流通経済科、情報ビジネス科(A・B 類型) 地域ビジネス科		
教科書(出版社)		明解歴史総合 (帝国書院)					
副教材(出版社)		明解歴史総合ノート (帝国書院)					
授業の概要		近現代を中心に、特に世界史の動向と日本との関わりを重視した歴史学習を行う。多くの事象を理解するだけでなく、先人が残した資料を読み解きながら、現在の社会や文化に歴史的営みがいかに影響を及ぼしているか考察する。					
授業の目標		日本と世界の近現代史の基本的な事象を学び、多様な文化や価値観、様々な社会のあり方を理解するとともに、グローバル化する社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成に必要な公民としての資質・能力を育成する。					
年間 学習 計画 画		学習内容 (単元・項目)			学 習 目 標		
	1 学 期	1部 歴史の扉 2部 近代化と私たち 1 近代化への問い 2 結び付く世界と日本の開国 3 国民国家と明治維新 4 近代化と現代の諸課題			・歴史における資料の重要性と適切な読み解き方について理解する。 ・18 世紀のアジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多角的・多面的に考察し、表現する。 ・欧米の市民革命や日本の明治維新や大日本帝国制定など国民国家が形成される過程を理解する。 ・列強の帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響を多角的・多面的に考察し、表現する。		
	2 学 期	3 部 国際秩序の変化や大衆と私たち 1 国際秩序の変化や大衆化への問い 2 第一次世界大戦と大衆社会 3 経済危機と第二次世界大戦 4 国際秩序の変化や大衆化と現代の諸課題			・国際秩序の変化や大衆社会に関する資料を分析し、資料を読み取った情報をまとめたりするなど表現する。 ・第一次世界大戦やソヴィエト連邦の成立など国際社会の変容を理解し、大衆の政治参加や大量消費社会成立の歴史的意義を、資料を通して考察する。 ・世界恐慌やファシズムの台頭が第二次世界大戦の展開にどのような影響を及ぼしたのか理解する。 ・第二次世界大戦後の国際社会の変化と日本の関わりを資料を通して考察し、表現する。		
	3 学 期	4 部 グローバル化と私たち 1 グローバル化への問い 2 冷戦と世界経済 3 世界秩序の変容と日本 4 現代的な諸課題の形成と展望			・グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。 ・冷戦後の国際社会の変容と諸問題について、資料をもとに考察し、今後の世界秩序のあり方を展望する。		
観 点 別 評 価	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から理解する。 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。			歴史の変化に関わる事象の意味、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題の解決に向けて構想したりすることができる。		知識及び技能、思考力、表現力を粘り強く身に付けようとしている。 歴史に関わる諸事象について、平和で民主的な社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に解決しようとしている。	
備 考	学期ごとに 3 つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・C の 3 段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	公 民		科 目	政治・経済	単位数	2
学 年	3 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		高等学校 政治・経済（第一学習社）				
副教材（出版社）		最新 政治・経済資料集 2025（第一学習社）				
授業の概要		教科書に沿って、本文の内容を理解し、議論する。概論だけでなく、諸課題へのアプローチを扱いながら現代社会の諸課題を深く学ぶ。				
授業の目標		社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通じて、広い視野に立ち、社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第1編 現代日本の政治・経済の諸課題 第1章 現代日本の政治と経済 第1節 日本国憲法と現代政治のあり方 第2節 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方		・政治や政治権力の意味とその役割について理解する。 ・よりよい民主政治のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・「日本国憲法と現代政治のあり方」や「望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方」について、多面的・多角的に考察、構想し、表現するとともに、よりよい社会の実現を視野に、現代政治の諸課題を主体的に解決しようとする姿勢を身に付ける。		
	2 学 期	第3節 市場経済の機能と限界 第4節 持続可能な財政および租税のあり方 第5節 金融を通じた経済活動の活性化 第6節 経済活動と福祉の向上 第2章 現代日本の諸課題の探究 選択1 産業構造の変化と起業 選択2 防災と安全・安心な社会の実現		・経済の役割と、市場経済における人々の選択について、理解する。 ・金融のはたらきと金融機関の役割について、理解する。 ・社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる現代日本社会の諸課題を探究する活動を通して、課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会のあり方についての自分の考えを説明、論述する。		
	3 学 期	第2編 グローバル化する国際社会の諸課題 第1章 現代の国際政治・経済 第2章 国際社会の諸課題の探究		・諸課題の探究にあたって、国際社会の動向に着目したり、諸外国における取り組みや、国際連合における持続可能な開発のための取り組みなどを参考にしたりして、諸課題を主体的に解決し、合意形成や社会参画に向かおうとする姿勢を身に付ける。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	社会のあり方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会のあり方に関わる情報を適切かつ効果的に調べることができる。		国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や実現可能性などを指標にして議論し、公正に判断することができる。		よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	理 科		科 目	地学基礎	単位数	2
学 年	3 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		地学基礎（数研出版）				
副教材（出版社）		リト [®] Light ノート地学基礎（数研出版）、リト [®] α 地学基礎（数研出版）				
授業の概要		地球がプレートの運動や太陽の放射エネルギーによって変動してきたこと、宇宙と惑星としての地球の特徴、地球環境と人間生活とのかかわりについて学習する。				
授業の目標		日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探求する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第1編 活動する地球 第1章 地球の構造 第2章 プレートの運動 第3章 地震と地殻変動 第4章 火山 第2編 移り変わる地球 第1章 地層の形成 第2章 古生物の変遷と地球環境		・地球の形・大きさの測定の仕方や構造などについて、スケールも含めて理解する。 ・プレートの運動について学び、火山活動と地震活動が総合的に一つの仮説にまとめられることを理解する。 ・地震の性質と地殻変動について理解を深める。 ・火山活動と、その結果として形成される岩石について学ぶ。 ・太陽エネルギーと重力がどのように地形の変化や堆積作用にかかわっているかを学ぶ。 ・地球と生命の関係の理解を深める。		
	2 学 期	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 第2章 大気と海水の運動 第4編 地球の環境 第1章 地球の環境と日本の自然環境 第5編 太陽系と宇宙 第1章 太陽系と太陽 探求活動		・大気圏の構造と、地球の熱収支について理解する。 ・海洋も大気の運動と同じように熱収支のバランスにとっても重要であることを理解する。 ・時間スケールの大きな現象を考える場合は、全地球的にとらえることが必要であることを理解する。 ・日本の自然環境の特徴と、そこで起こる災害を理解する。 ・太陽のエネルギー源や構造、太陽の活動のようすなどについて学ぶ。また、恒星の進化の過程や時間的なスケールを理解する。		
	3 学 期	第2章 宇宙の誕生		・太陽系の天体に関して、系統的に学習し、理解を深める。 ・ビッグバンによる宇宙の誕生を理解し、宇宙の構造を知る。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	学習内容について理解を深めることができる。 観察実験で得られたデータをもとにして関連する知識を整理できる。		簡単な仮説をあげ、その処理実験と対照実験を考えることができる。 実験計画に沿った観察・実験の実行と結果の整理ができる。		身近な自然事象について興味と関心をもちながら、積極的な態度で授業に取り組むことができる。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					